

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號五三三第・日三廿月八輯編局報情

週報寫眞

札立の時

勝負は飛行機だ 蹴散らせ 追っ拂へ マリンナ上空の敵機群を



湖南の要衝 衡陽陥つ

包圍攻め四十日、我軍不降を請つた敵軍もわが精銳の猛攻に耐えかねて遂に陥落した



八月八日、湖南省の敵牙城衡陽は遂に陥落した。長沙を一氣に陥つた我が軍は、餘勢を駆つて南下し、六月二十六日衡陽飛行場を占領し、同二十八日には衡陽城を完全に包圍したのであるが、地形、天候に阻まれ、かつ在支米空軍の必死の猛攻により、我が兵隊は非常に犠牲を蒙った。しかも敵の頑固死守の決意もなかなか強烈であり、第六、第九師団より數十ヶ師の大軍を救援に赴かせたので、我が軍は巧妙なる作戦によつて先づこの野戦軍を随所に捕獲殲滅し、しかる後、衡陽総攻撃を開始するや、僅か四日にして完全にこれを陥つたのである。

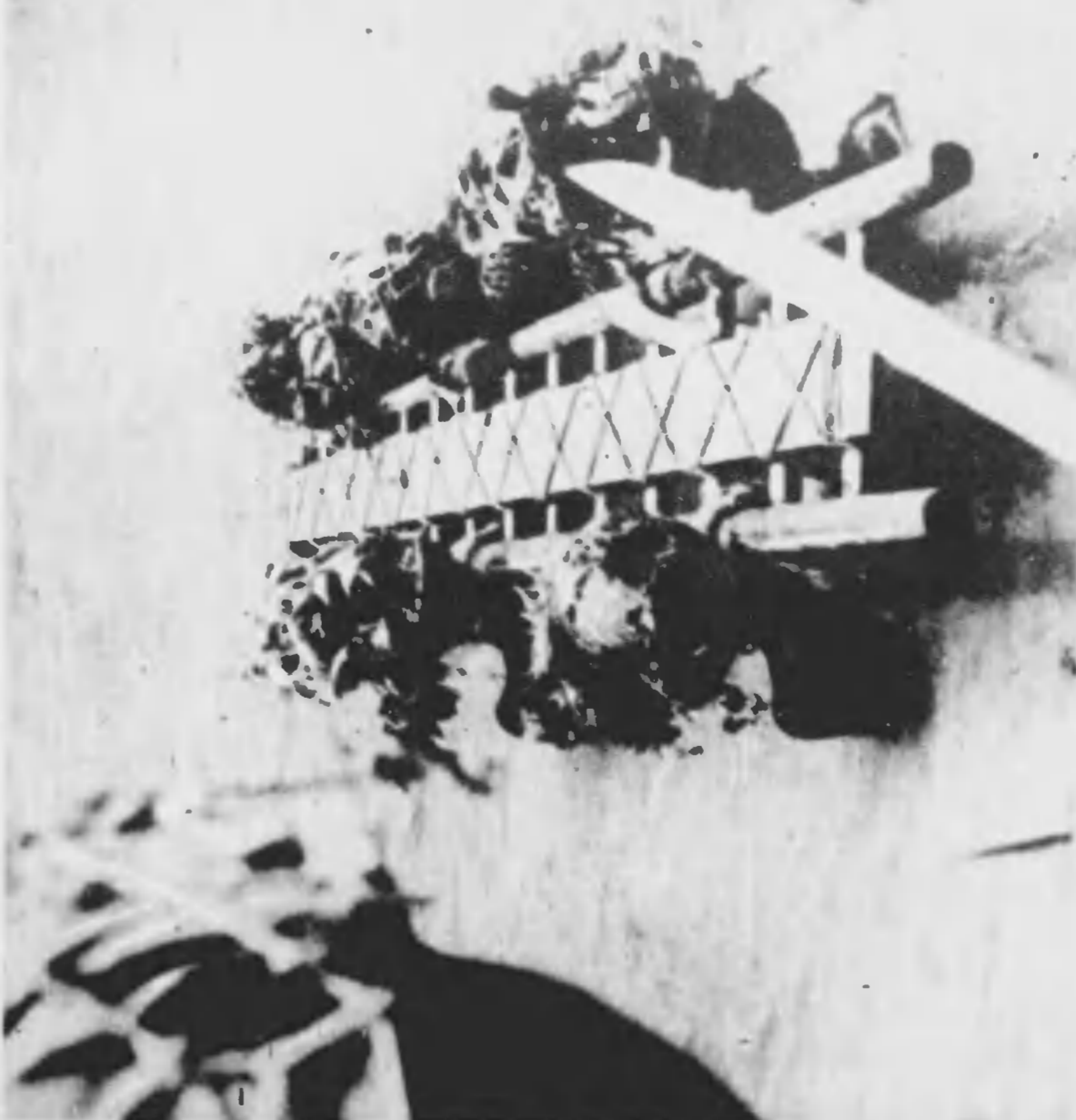
一方、我が空軍も在支米空軍の襲撃に全力を懸け、七月一日以来、相次いで敵基地を襲撃し、すでに六百機以上が敵機を撃墜して、大いに作戦に密着すると共に、敵の日本本土空軍の野望を粉砕した。衡陽攻勢の結果は重大であり、敵軍長 師長以下、未入降旗をも含む一万三千名を俘虜とし、遺棄死傷四千を算し、捕獲品多量を得た。

敵はこれによつて湖南の最大要衝を失ひ、我が南下作戦の大關門が開かれたのみでなく、在支米空軍の前進基地を失ひ、湖南各地たる遠く川以下の敵飛行場は、本據たる桂林との地上連絡を遮断せられてその機能を喪失し、我が本土への空襲企圖も著るしく減少せられたのである。敵がいかに衡陽の防衛を重視したかは、その犠牲しがた戦死ぶりからも窺へることであり、物的、人的に與へた敵の損害は甚大で、今やその苦悶は堪へべくもない。



頭を、いかに、大陸の戦場もまた木霊の法眼場となつたのだ

水田には敵機が機銃をあげてつきまゝ。だが、わが空軍隊は少しもたじろがね



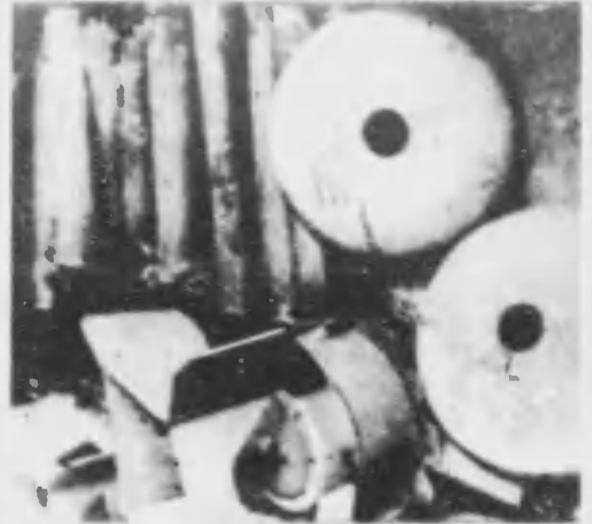
なほ湖南方面作戦の総合戦果は
 本報記者(昭和十九年八月十四日)一、湖南方面の我部隊は衡陽周縁に陥集する敵を殲滅すると共に、戦後の作戦準備中なり
 二、五月二十七日湖南方面の作戦開始以降八月八日衡陽攻勢迄の総合戦果中主要なるもの次の如し

敵に與へたる損害
 我方にて收容せる死傷 六万六千四百六十八
 俘虜 一万七千四百四十七名
 遺棄品 各種火砲 三百二十五門、重機銃機銃 一千五百五挺、小銃 一万三千六百六十六挺
 飛行機撃墜英上 八百六十九機
 我方の損害
 戦死 五千三百四十三名

週間點描

政府は八月八日、戦局に即應して女子の勤労進歩を發表した。即ち職種と女子の勤労を配合させて、各職種に對する女子従事率を決定、同時に男子の雇入れを制限したのである。兵員及び軍需物資の増産に對する女子の需要が激増の一途を辿るとき、正に奮然の措置である。われわれはドイツが去る十日、女子の従事率を五十歳に引上げ、また物力を誇るアメリカの労働協約に、女子が五大役割を演じつゝある事實を忘れてはならぬ。

八月十一日 敵機二十機内外が我機隊に分散して朝鮮南部、九州西部及び北部並びに山陰地方に飛来した。わが偵察部隊の奮戦で、殆んどなすところなく撃退したが、今後敵の空襲が一層激化するとは當然覚悟しなければならぬ。寒戦のたびに備へが固くなり——の意氣で當りではないか。

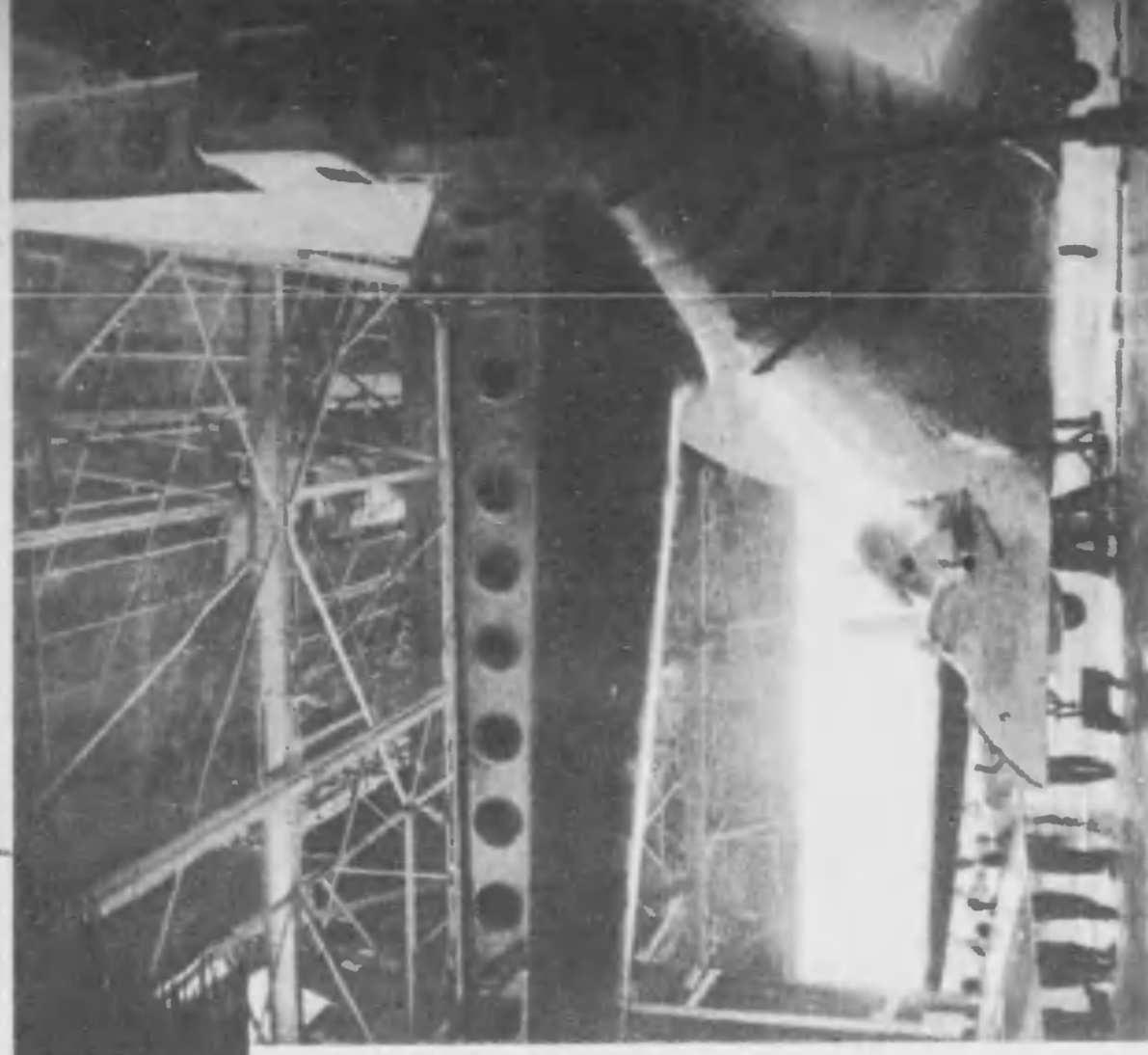


アメリカが物入りで準備してゐた「モロツ」のパン艦が八月十一日の北九州空襲に登場した。これは投下された途中で自然に炸裂し、船の中から五キロの小型ロケット弾が二十四発はらまかれるといふが、爆発力が弱く、焚き人隊直前の少年は燃えることの油断で油筒を袖に抱んで、用水筒を振り込み、また六十二歳のお婆さんは六発も土中に埋めて、あつさりお付けてしまつた。防空隊の指令の前には、パン艦の威力どころか、掃蕩化して去つた。

帝國陸軍部隊は、七月中に陸軍または陸軍の敵機二千三百機といふ戦果をあげてゐる。わが方の損害は百三十九機。その損害比は約十対一である。さらに繰りさらに進めば、その比もまた地に開くのだ。録後の實況直し

飛機増産へ

一致一億



海軍省

何かといへば「物量増産」といふが、しかし敵も果敢と左
 團扇で甚大なあの飛行機をつくり出したわけではない。緒戦の惨敗
 に航空兵力の絶大な威力を骨身に徹して悟つたアメリカは、一九四
 二年(昭和十七年)夏に自動車工業を航空工業に轉換せしめた。さらに
 戦局が急迫するや、男は六十五歳まで、女も五十歳まで軍需工場に
 動員し、なかんづく航空工業は工員の十人のうち七人までが女であ
 り、その上、二直交替、三直交替で航空兵力の増強に躍起となつて
 る。敵の銃後の戦意は實に旺盛なものである

この敵より人口少く、物の劣勢を補はねばならないわが國は、ア
 メリカ人以上の努力をしなければならぬのに、現状は一億が果して
 十分に力を出しきつてゐるとはいへぬものがある。それを思ふと、
 飛行機の生産にかけがへのない重要物資を死蔵したり、積流したり
 するもの、職場を缺勤して賃金の高い自由労働に奔り、工場の能
 率の低下をかまはず不常利得を稼ぐもの、行政機構、各種統制機構、
 或ひは会社などで、その地位を濫用して情實による私慾を肥やすも
 の、名のみのはゆる假裝勞務者として徴用を忌避するものなど、
 國を敗戦に導いても私益を圖るものは、正にその罪、死に値する
 ものである

もちろん私共飛行機生産に携はつてゐるものは、責任を國民に轉
 嫁しようなどとは毛頭考へてゐない。また私共にできることは命を
 賭してもやるが

「飛行機の緊急増産は、上は總理大臣から下は國民
 學校のヨイコまで、一億が死物狂ひで努力してはじ
 めてなすとげられる大仕事であつて、特に國民の協
 力をお願いしたい」

飛行機増産の途は廣くさまざまであるから、一概にいふことはで
 きないが、まづ指導的な立場にある人には「俺は死物狂ひでやるか
 ら皆もしつかり頼むぞ」といふ意氣と、獨りよがりをやめて衆智を
 進んで容れる包摂力を望みたい。また工員諸君には能率の向上と資
 材電力などの節約を希む。かくて上下一致し一熱をもつて努力すれ
 ば、二倍、三倍の能率は上るものである

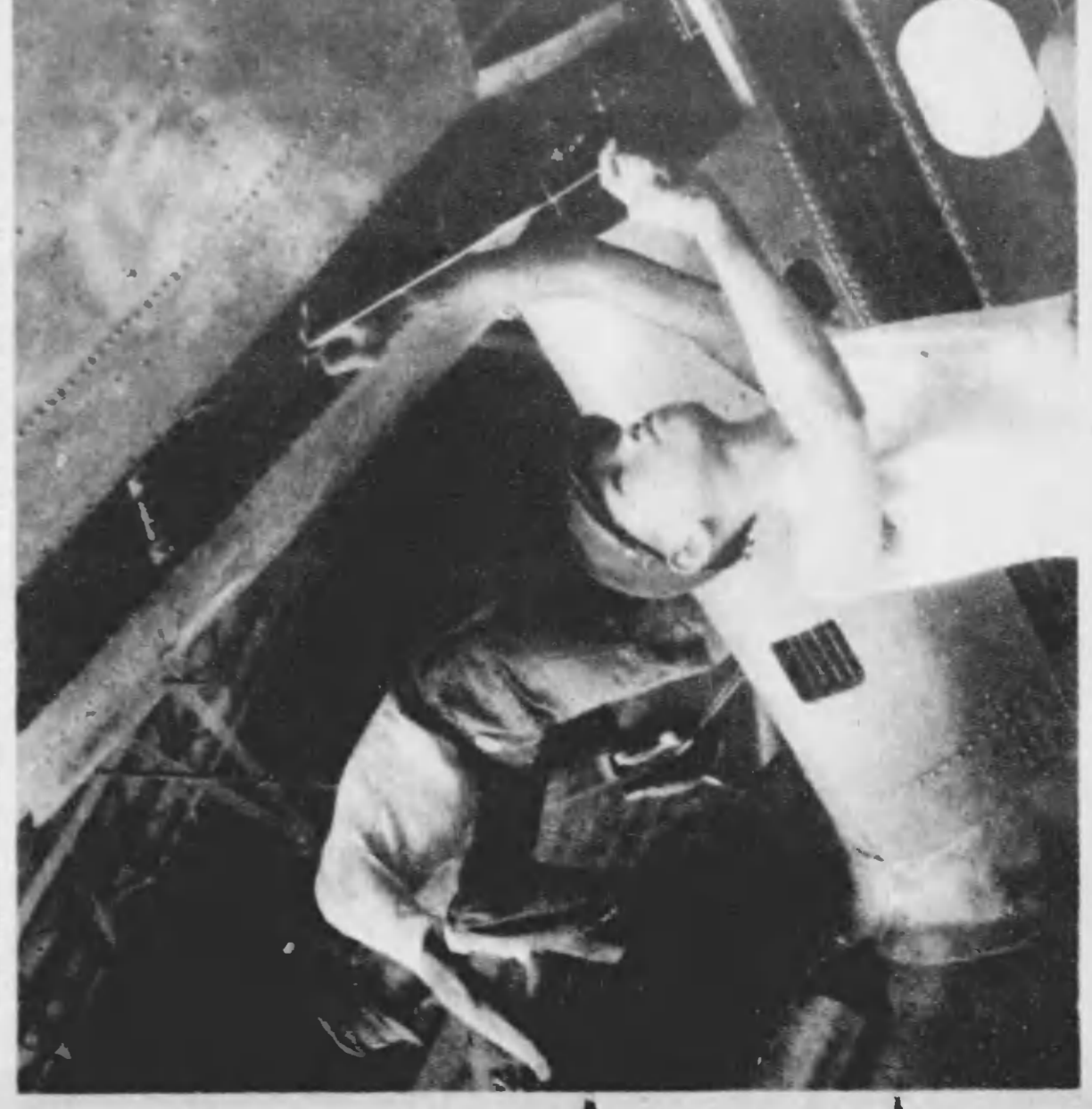
前線の將兵は敵の物量攻勢を質をもつて喰ひ止めて來た。いひか
 へれば、血をもつて闘つて來たのである。多年の訓練を受けた國寶
 ともいふべき優秀な搭乗員が、むさくたゝ数が足りぬために敵の
 未熟なものによつて失はれてゐる。これ以上いまのやうな苦しい戦
 争を將兵にさせてはならぬ。それには、日本人の目に見えない秀れ
 た素質を活かし、飛行機を數多くつくつて送るのだ。前線
 の血にわれらは汗を以て應へよう

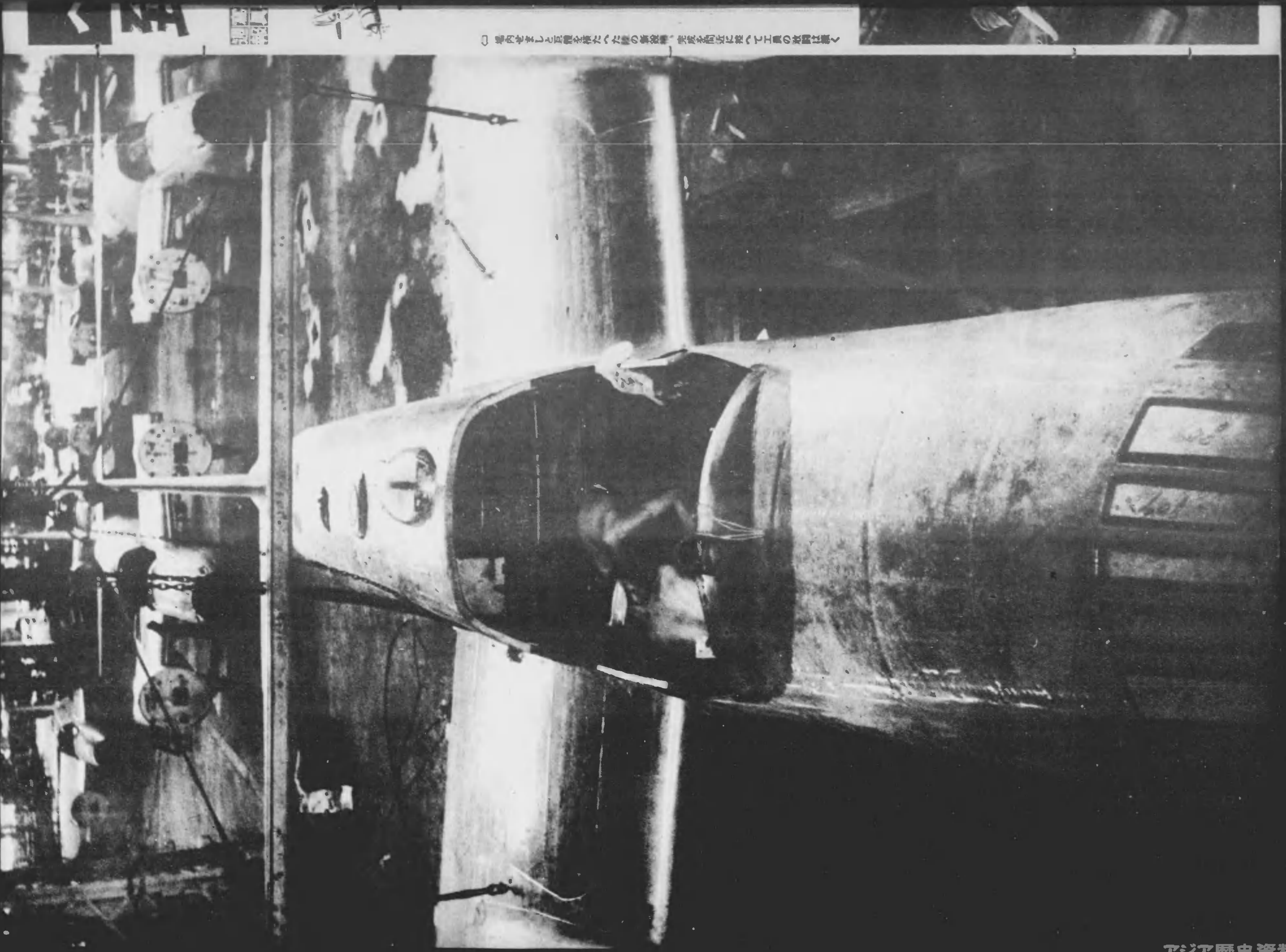
軍需省航空兵器總局總務局長
 海軍中將 大西瀧治郎

◻ 場内せましと巨體を築いた陸の新鋭機、完成を尙近に控へて工員の取組は續く



◻ 眞上一日も早く眞上れと、必死になつて
 聯合社の針を運ぶ女子挺身隊
 ◻ 心底からしほり出した汗が、重要機
 械となつて空翔けるのだ、頑張らう





□ 船がまじしと巨艦を運ぶ大船の船長、船長を前にて工員の手は通す

北の海意 意気高し



真凍が凍々基地に降りてくる。寒風は来れば、必ず凍死に叩きこんでやるぞ

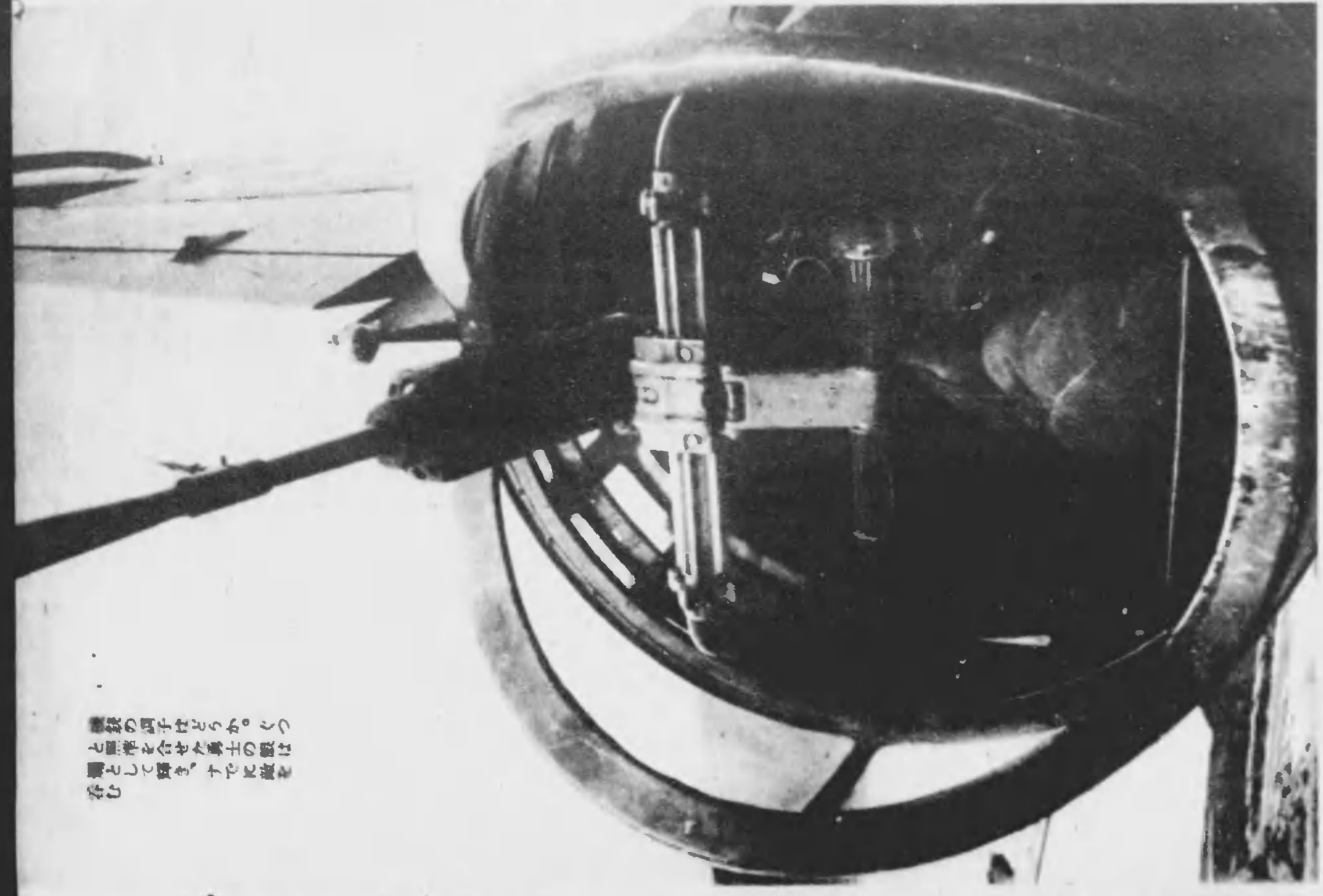
側に来つた敵の全面攻勢は決して解脱してはならない。北方方面に対しても、敵は露骨な攻勢企圖を示してをり、西部アリューシャン地区に対する空軍並びに海上部隊の増強は、その後も引續き行はれてゐる。過般の滿洲方面空襲、十一月の九州、山陰、朝鮮空襲など、またルースヴェルトのアリューシャン訪問などと脱み合せて、この方面に対する敵の暴動は、嚴戒を要する



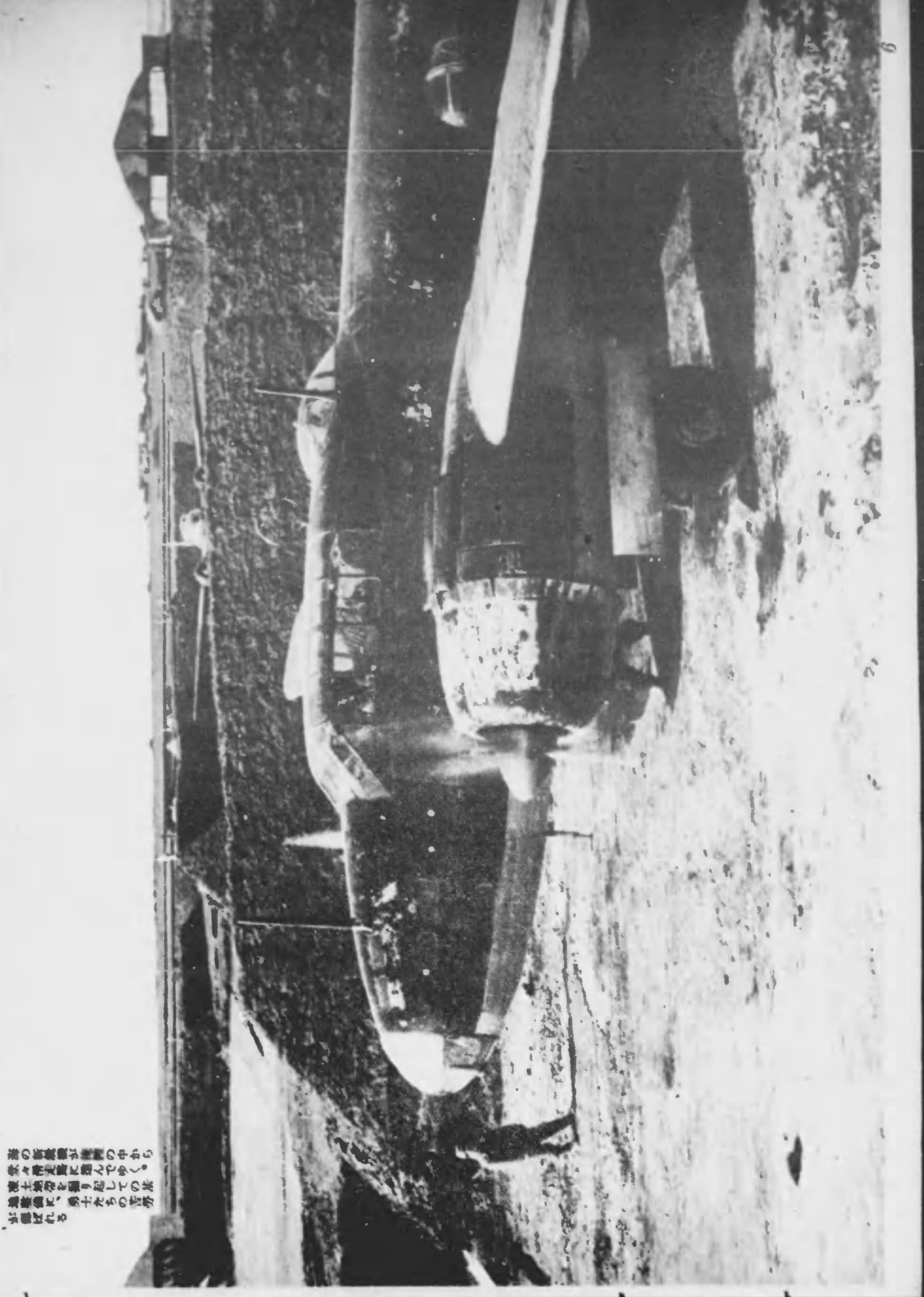
夏衣といふのは、備を準備してゐる指先が、凍むらにちかかんで来る。だが、出陣の時間は迫る……

だが、凍風来らば来れ。こゝ北方基地に在るわが海軍の精銳は、潮を待しつゝ、敵艦の好機を待つてゐる。殘雪を渡り北洋に荒風は霧をふくんで肌を刺し、満目たる霧帷。この僻地を決戦の場として、荒鷲の意気は天を衝く。精銳よ、健在なれ。われらまた本土に完勝の防空陣を布いてその奮戦に参へよう

撮影 小原海軍報員風真



機銃の調子はどうか。ぐつと無音を合はせ、勇士の眼は潮として輝き、ナでに敵を呑む



海軍の野戦機が機庫の中から、次々哨戒隊に誘入で喚ぶ。東土地帯を廻り廻しての基、機庫に、勇士たちの奮闘が響けらる



防空服装で空襲時の乗車心得

↑ **いつとどこ空襲に遭ふか分からないから、飛行するときは必ず防空服装をして、住所、氏名、血液型などをばつつき** いた氏名を書けるほか、辨別上水筒や手帳、荷物は手帕

↓ **列車に乗つてゐるときは警報警報出たら、車掌が各車ごと** に車内に組を作り、列車の終端まで早くやうな人で組長と副組長を一人づつ選ぶ。乗客は白い腕章をつけたこの組長、副組長の指示に従つて、網棚から重い荷物を降ろして逃げたがよい

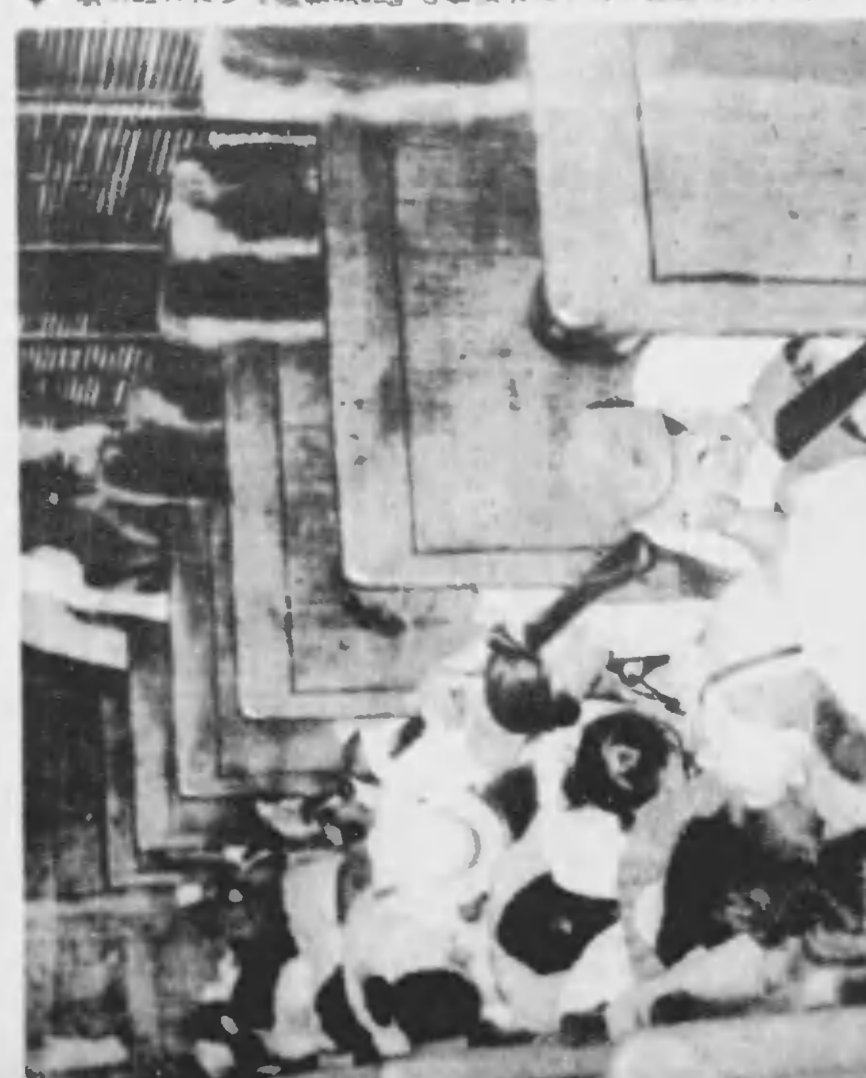


さらに、一時、腰かけの下におろすか、すべて協力する **空襲警報が出たら、防空服装を整へ、手廻品をとりま** ち、貴重品、住所氏名を記したものを身につける

↓ **乗客は、列車の窓ガラスは閉けるが、網戸やカーテンは閉** めておかないやうに注意する。煙草を吸ふことと懐中電燈 を使うことは絶対にしてはならない。暗しくさげきかたてたりし て、周囲のものとなるやうな行動をすることもまた絶対に禁む

↑ **敵機来襲の危険が迫つたときには、** 警報警報の音や空襲警報の音に注意し、飛行したり、または車掌(或は組長)から傳言する。そのときは即座に立ち 上がり、手廻品で支えながら、通路等りのところへ立ち、まづ手廻品を降ろす

↓ **一時危険をよけるため列車が途中で停つたときでも、車掌(或は組長)が指示する** まで車内に待避してゐて、勝手に下車しない。しかし時によつては、車外に分散して行 動するやう指示されることもある。敵機が近づても車掌(組長)の指示に従つて、勝手に 動き出さない。敵機退散の傳言があつたら通路を元へ戻し、元の階層にかへる



↑ **列車では風通しはとむるのでせう。今か** らいつか頭に入れておいて、いざといふ時 刻に迷ひないやうにいたしませう

列車の運行

↑ **空襲警報発令のときでも列車は原則として** 運行するので、積荷次第によつては運 轉を臨時に變更して、途中中間まで打ち切 りになつたり、開引運轉をしたり、受領前の出 発、或は細山線を變更するとか、通過時に 停車したり、また停車時を通過することなど があります。また敵機が来襲したときには、 全部運轉を止めます。電車なら、乗客の降上 りり乗客を下して待避させます

↓ **さうしたときの待避には、必ず乗務員や保** 護員の指示に従つて、沈着冷静に行動すること が大切です

旅客の取扱

↑ **警報警報下ならいつものやうに行はれます** が、たい人場券は發給されません

↓ **空襲警報が發令されると、特に危険でない** 限り、旅客の取扱はいつものやうに行はれま す。左のやうな處置がとられます

1 **特急列車、つまり定期列車、回**

↑ **乗車券、團體乗車券、貸切乗車券、急行券は** 發給停止となります(ただし當日分の急行券と 団体券が特に必要と認められたものは除かれる)

↓ **口 割引乗車券(学生割引、移住者割引、** 武蔵野割引)等は發給停止(但し、公務割引、 下士官割引、入船割引、無償者割引等は、 軍公務に支障を来す恐れがあるので、發給さ れる)

↑ **ア 一般乗車券は、原則として二等、三等** 券だけといふやうに)だけになります

↓ **ニ 運船指定は、原則として敵艦に敵艦** ひますので、汽船出帆の當日分を除き取扱は 停止されます

↑ **ホ 旅客の運賃の拂戻は、空襲警報解除** 後に行はれます。そのときは通用期間が過ぎ ても拂戻しかできるやう乗車券に證明されま す

↓ **ヘ 携帶品の一時預けは受付停止されま** す。なほ、運賃もつと追つてくるときは、一 切の乗車券は發給停止されることがあります

旅客の乗車變更

↑ **空襲警報を發令されてゐる地域を通らね** ばならない乗客は、鐵道で必要があると認めら れた場合は、希望によつては他線に迂回してゆく ことができます。このときは迂回しただけの 運賃は要らず、また迂回して乗車券通用期間 が切れるときには、有効な證明がされること になつてゐます

↓ **空襲警報發令中の地域にゆく人々、その地** 域を通過する人が、空襲警報が發令されたた め、旅行を中止して、元の發着または途中の 駅に戻りたいときは、その旨を申出れば、無 償で送りかへされます。このとき途中の駅で 下車して再び同じ旅行をするときは、通用期 間が経過したらその延期額を出せば、警報發 令中の期間に相當するだけ通用期間が延長さ れます

↑ **列車や汽船に乗る人で指定券を持つ人は、** 空襲警報發令のため、指定の列車や汽船に乗 れなかつたときは、その事情明らかならものに 限り、旅客運賃、急行料金が拂ひ戻されます

↓ **小荷物、貨物の取扱**

↑ **空襲警報發令の間、その地域では引受も引** 渡しも原則として停止されます。しかし小荷 物扱中の旅行用品の引渡しは停止されず、ま た軍用品、新聞またはこれに類する緊急品は 運送水知の上で受託されます

↓ **敵機が来襲したときは、旅客の取扱のとき** と同じく小荷物や貨物の扱ひも停止されます。 なほ情勢に応じて、これ以外の處置がとら れることもあります

